

# 東京大学の英語二次試験とその対策

松江北高英語科 2017年7月

## I 問題の傾向と特徴

### 「高度な情報処理能力を問う」東大

英語の知識と運用力を、大意要約、英文和訳、長文総合、文法問題、自由英作文、リスニングの6種類の問題で力を試す。「基本=易しい」と甘く見てはならない。

知識の正確さのみならず、情報の受信から発信までのスピードが要求される。

英語を媒介としての情報処理能力、情報分析能力、情報伝達力が試されている。語彙の知識量より日常的な文脈における実際的な言語運用力に重点を置く。

これまで、どのようにして、また、どれだけ英語に接してきたか、英語学習の姿勢と経験が問われる。英語のオールラウンドな力を求める日本一良質な問題の出題。

\*毎年出題のスタイルにはなんらかの変化が見られる。「話すこと」以外はすべて試されると考えておく方がよい(話すことも会話問題/リスニング問題で間接的に試される)。

### ■灘高校での秋のオープン模試判定の判断の仕方 (木村達哉氏談)

A判定	ほぼ確実に合格
B判定	ほぼ確実に合格
C判定	C判定の生徒が10人いたら6~7人は合格する
D判定	D判定の生徒が10人いたら4~5人は合格する
E判定	D判定まで偏差値5以内の生徒はD判定の同じ確率



## II 配点と時間配分 (2016年)

難易度: 難

総点 120点 最低目標点 文系 70点 理系 65点  
試験時間 120分 (うちリスニング30分)

### ■大問の内訳と解答時間目安 120分 120点

大問	設問形	配点?	時間
第1問	A. 大意要約	12点	12~15分
	B. 文・段落補充	8点	12~15分
第2問	A. 自由英作文	10点	10分
	B. 自由英作文	10点	10分
第3問	A. リスニング	30点	10分
	B. リスニング		10分
	C. リスニング		10分
第4問	A. 文法・語法	5点	5分
	B. 下線部訳	15点	10分
第5問	長文総合読解(文学系)	30点	20~25分

④網掛けは差のつく問題。設問別の配点は公表されていない。



語彙力の充実  
文脈の把握力  
時間との闘いを培う



- ①基本構文の徹底理解
- ②精読と速読のバランス
- ③高度な日本語記述力
- ④迅速な問題処理能力



『外国語による理解力と表現力』といふことに尽き、正確な知識に裏打ちされた論理的な思考力の養成に努めてほしい



**本番で6割取れば合格だ!**

ここで重要となるのは第3問のリスニング問題の処理です。リスニングは試験開始後、およそ45分経過した頃に開始されます。つまり、第1問がほぼ終わったころ、ちょうどリスニングが始まることとなります。ちょうどよいタイミングに思えるかもしれませんが、東大のリスニングでは、あらかじめ問題文に目を通しておくことが絶対に必要となります。もし、まともに、放送を聴いてから設問に取りかかる、という方法を取ると、放送内容をしっかりと、細かいところまで把握することはかなり難しいため、設問段階でかなり手こずることとなります。それゆえに、必ず最初の45分のうち、3分から5分程度を、リスニングの設問に目を通し、あらかじめ聞くべきポイントをチェック(待ち受け)しておく時間として、確保することが必要となります。

**重要**

それゆえに、一般的な解答の順序は、

- ① 第1問 要約問題を解答する。
  - ↓
  - ② 第2問 作文問題
  - ↓
  - ③ 第3問 リスニング問題に目を通す。
  - ↓
  - ④ 第4問 文法・語彙の問題及び下線部訳に取りかかる。
- 4.5分後に (途中中断もOK)
- ★リスニング試験が始まり、設問を解く (30分間)
- ↓
- ⑤ 第4問に戻り、その後、残った問題に取り組む。

問題を解いている最中にリスニングが始まって中断してもよいような問題から取りかかること

**45:30-45の時間意識**

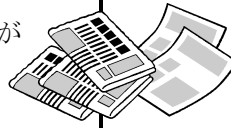
ということになります。リスニングの設問に早めに目を通しておき、またリスニングの問題が途中で開始されても解答が中途半端にならない第4問に、先に取りかかる、という作戦です。

### Ⅲ 対策

#### 理解力・思考力・表現力を問う

(1) 大意要約：論理展開のしっかりした評論から、やや漠然とした内容の随筆まで出題される。論説形の文章が使われることが多い。テーマは言語・文化・環境問題・科学・歴史・現代社会などバラエティに富む。英文そのものは難しくはないが、難しいのは論旨を簡潔にまとめること。授業で使うテキスト等の要約や日本語で「天声人語」の要約をする事も役に立つ。字数は70～120字。

- 先入観を持たず、素直に読むこと。
- 論旨の展開を追うだけでなく、何を削るかを考える。
- パラグラフごとに内容をまとめたり、小見出しをつける練習が効果的 ※過去問や広島大学の問題が役に立つ
- 本を読んで日本語の表現力を養うこと。



(2) 段落補充：課題文が長く、選択肢も長い。段落補充の場合は、英文の論旨を掴むと解きやすい。各パラグラフの最後にある結論部とそれに続くパラグラフの導入部との有機的なつながりを的確に見抜くような目を養う努力を続けよう。最も単純なやり方は、抜き出された部分とその前後の部分に共通する単語や語句、表現などを見つけ、そこにつながりを求めるやり方です。この問題の見極めが全体の時間配分に大きな影響。

- 先に選択肢に目を通し、論旨をメモする。
- 前後の文脈とのつながりを示す時間、数字、代名詞、接続詞等に注意する。
- 課題文を読む。使わない選択肢があることを意識する。

(3) テーマ作文：主題に沿って自分の意見を展開していく問題。出題形式は毎年異なるが、大学の研究論文を書くのに必要な実践応力を求めている。過去の他大学の問題（早稲田・法、国際教養大）を利用し練習することが必要。添削練習必須。

- 正確な英語（語法・文法・構文・綴りのミスを犯さない）で易しい語彙、構文で書くこと。まずは授業で正しく英語を書くこと。
- 長いものではパラグラフの構成の理解を。

\*「内容よりも作文能力を問う問題」であることに注意せよ。

英語による要約：与えられたテーマについての議論の正確な把握が前提。この問題で求められているものは、「物事を筋道を立てて論理的に組み立てられる・思考力」です。論旨を素早く、正確に把握する力を養うこと。

「いま試験を受けているキャンパスに関して気づいたことを一つ選び60～80語の英文で述べよ」（2017年）…状況を詳しく描写する力

(4) リスニング：不思議な現象や意外な事実を扱ったものが多い。純粹に聞き取り能力による理解を試すためだろう。ICUなどのリスニングと違って、音の連続や、弱音が少ないので、文字情報と音声情報に大きな隔たりがなく、しっかりとした英語力があれば、対応できる。リスニングの放送の前に問題文を読むことは前提。1回目は話の大きな流れと数字、固有名詞、などをメモする。2回目は曖昧なところを確認する。放送の前に問題冊子の設問文や解答欄に目を通しておくのは常識。講義形式+会話形式。



A, B, Cの各セクションはあたり500語前後 長文への対応力  
1問あたり4分半～5分で2回ずつ放送される。計30分間  
15分 [= 5分×3題] × 2回

差がつく!

これぞ東大ならではの。聞くだけでは攻略できない。リスニングができない原因は次の4つ。

#### 英語が聞き取れない理由 4つのS

4s

1. **Sound** 音を知らない語(句)が含まれている。  
英語の音の特徴・接続・変化を理解していない  
→★「ディクテーション」で自己分析し「音読」でトレーニング
2. **Sense** 意味や綴りが分からない語やフレーズが含まれている。  
★知らない単語・熟語は聞き取れない
3. **Structure** 文法や構造に未知のものが含まれている。  
★戻り読みをしないこと！聞こえる語順の通りに理解
4. **Speed** 速度についていけない。  
★慣れるしかない！

④リスニングが苦手という人は普通2, 3でつまづいている。  
ある程度できるようになると1, 4でつまづく。



- 日頃英語をどれだけ聞いているかが、勝負。
- ディクテーションは英語に慣れるのに有効。
- 英語の音とリズムに慣れるために毎日30分程度は英語を聴く。
- 授業の教材の英文を正確に早く読む練習は大切→音声チェック

英語耳

\*NHKラジオ英会話、基礎英語、VOA (<http://learningenglish.voanews.com/>) 等が材料に最適

#### リスニングの勉強は？

- ①リーディング力を上げる 「読んで分からないものは聞いても分からない」
- ②短い英文のリスニングに慣れたら徐々に長くする センターリスニング第4問 A, B が最適
- ③自分の能力にあった教材を選ぶ そして細部まで聞き取れるように何十回も聞く！  
ここで妥協してはダメ！「繰り返し」こそがカギ！

#### 気をつけたいことは？

- ①必要な情報を「待ち受ける」姿勢で臨む ※「何を」聞き取ればよいか？
- ②余計な情報に惑わされない
- ③数字に強くなる 数字の聞き取りは必出（計算が必要なことも）

東大の独自性が非常に強く、ただ聞くだけでは攻略できない!

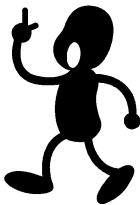




(5) 文法問題：出題形式は毎年異なる。不要語指摘と語句整序が主だったものだが、2016は文中の誤り箇所が問われた。問題の英文が長めなので、確かな構文・文法力が要求される。

英文和訳：下線部和訳が主体。英文は随筆風なものが多く、奥深い内容のものが好まれる。全体を理解した上で、前後の文脈から適切な日本語を選び、完成度の高い日本語に訳す。単語はそう難しくないが、直訳では意味が通らず、いざ日本語にしようとするのが東大の特徴。

- 語彙は、文脈からの類推力が問題となる。『音読英単語』（必修編）をあげておけ。日頃から派生語・同意語・反意語や語源に注意することで語彙力増強を心がける。
- 修辭法（省略・同格・挿入・並列・倒置・後置）を。
- 日本語の表現力に磨きをかける。本（新書）を読め！



(6) 総合問題：課題文は長文化しているが、比較的読みやすい英文である（長さは第1問と第5問の合計で調整）。物語・伝記・随筆からの出題が多い。要点をかいつまんだだけでは解けるものではなく、何気なく記された一言や、小さな出来事が、最終的には物語全体の意味を担うものである場合が少なくない。大胆にして細心の注意が必要。設問は、人物の心情や表現の背後の意味を問うなど、「視覚イメージ化、人物の心情把握・推測の力」が問われている。原文と格闘しながら原文を読もうとする姿勢が試されていると思え。描出話法・省略・比喻も頻出。

● 授業、添削（「英文熟考」）、特別講座の取り組みで十分対応できる。

参考書 『キムタツの東大リスニング BASIC』（アルク、2310円）に付録としてDVDがついており、木村達哉先生の「東大英語攻略集中講義」が約1時間収録されている。とても参考になる。ぜひ観られたい。『西きょうじのトークで攻略 東大への英語塾』（語学春秋社、1800円）のCD講義を聴け。もう二。問題の解き方については、矢田弘巳『世界一わかりやすい東大の英語』（中経出版、1995円）、関正生『東大英語の核心』（研究社、2100円）がいい。超オススメ！

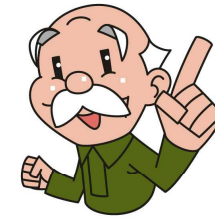
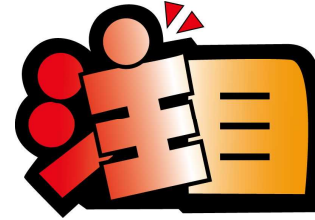
その他参考になる本を挙げておきましょう。

- 『東大研究英語』（Z会出版） 2200円
- 『鉄緑会東大英単語熟語鉄壁』（角川学芸出版） 2100円
- 大森有貴『東大生が教える！超英語術』（ダイヤモンド社） 1300円
- 木村達哉『ユメ勉』（アルク） 1100円
- 鬼塚幹彦・T.D.ミントン『「東大」英語のすべて』（上・下）（研究社）

※勉強法に関して彼のウェブサイト [www.asunaro-online.com](http://www.asunaro-online.com) も参考になる。



- 武知千津子編『東大の英語リスニング15カ年』（教学社） 2400円
- 佐藤雅史『東大の英語25カ年』（第4版）（教学社） 2300円
- 柿崎 理・鈴木正人『東大英語の総合的研究』（旺文社） 2500円
- 鬼塚幹彦『東大の英単語』（教学社） 1500円
- 宮崎 尊『東大英語総講義』（東進ゼミナール） 2000円



英語の配点の割合に注目したい！

### 東京大学の入学試験の配点

一次：二次配点 = 110 : 440

	文 理	センター試験		二次試験	合計点	割合	
		通常	換算				
国 語	現代文	理系	100	12	40	52	9%
		文系			80	92	17%
	古文 漢文	共通	50	6	20	26	5%
			50	6	20	26	5%
数 学	I A	共通	100	12	40	52	9%
	II B		100	12	40	52	9%
	III C	理系			40	40	7%
<b>英 語</b>			<b>200</b>	<b>24</b>	<b>120</b>	<b>144</b>	<b>27%</b>
社 会	世界史	文系	100	12	60	72	13%
	地理				60	60	11%
	現社	共通	100	12		12	2%
理 科	物理	理系	100	12	60	72	13%
	化学		100	12	60	72	13%
	生物	文系	100	12		12	2%
合 計			900	110	440	550	100%

英語を制する者が東大を制する！



⑨ 圧縮後の点数は小数第4位まではしき出され、合否はコンマ数点単位で決する！合格予定人数の2.5~4倍で「第一段階選抜」を実施

# 【総論】難関大を目指す生徒諸君へ～英語勉強法～ **POINT**

(1) 成績のよい生徒が難関大に行くのではなく、難関大を志望するから成績が上がるのだ。  
「覚悟」を持って勉強に臨め！「散歩のついでに富士山に登った人はいない」

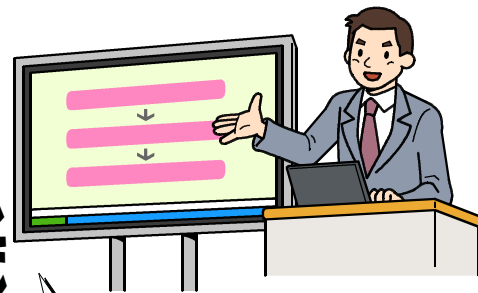
(2) 授業中心に勉強し（**予習→授業→復習**の黄金サイクル）、授業の中で疑問点を質問できる生徒、曖昧なことを教えると「違うのではないか？」と言える、授業中に顔を上げて教師の雑談を楽しめる生徒、が伸びる。

(3) 我流は伸びない。先生の指導に従う生徒が伸びる。担任の先生や教科担当の先生、部活の先生とおしゃべりができる生徒が伸びる。医学部は「ミスをしない努力型」、東大は「思考する完璧主義」、京大は「わがままな思考型」（理系）か「努力型」（文系）「学問の三越」は東大。

(4) 公立の生徒にとって一番難しいのは理科と地歴・公民の遅れ（カリキュラム上の問題）を取り戻すこと（3年10月にやっと教科書が済む）。そのためにも早く英・数・国がある程度終わらせておくことが必要。

(5) 『音読英単語』（必修編）と『ヴィンテージ』を早く終われ！あとは授業中心主義。行方昭夫『英文の読み方』（岩波新書）を読み。

(6) 読書せよ。難しい大学ほどこの経験が生きてくる。



**授業の予習・復習、定期考査、模擬試験、オープン模試を材料にして精度を高めた勉強を心がけよ！！ハードルを高く！！**

**要確認**

**センター試験9割は常識！**

**★秀才を求める東大と天才を模索する京大！**

# 京都大学の英語二次試験とその対策

I 出題の傾向と特徴 **深い理解力＝言葉を操る力** 日本語・英語を自在に駆使  
英語で書かれた情報の内容を的確に把握するだけでなく、把握した内容を日本語でどれだけ正確に、かつ巧みに表現できるかを、かたくなに英文和訳2題と和文英訳1題というわずかに2種類の問題で試すことで有名だった京大も、2015年入試から、少しずつ傾向が変化している。「考える力」が問われている。日本一難解な出題レベルであることには変わらない。

## 抽象概念の理解力と思考力

**学者・研究者の養成という目的**

II 配点と時間配分 (2016年) 難易度：難

解答用紙B5判冊子 (下書き用ページ含む)

### ■京大の大問内訳 150点

試験時間 120分

**総点150点**

**最低目標点**

**文系 80点**

**理系 75点**

大問	設問内容	配点	時間
第1問	読解総合 英文和訳 (内容説明含む)	50点	40分
第2問	読解総合 空所補充 英文和訳 内容説明	50点	40分
第3問	英作文全文英訳1題	25点	20分
第4問	自由英作文1題	25点	20分

←抽象度の高い英文

←具体的に比較的  
分かりやすい英文

←エッセイ調の日本語

←会話空所補充

III 対策 **直訳レベルでは通らない 必要なことは「結局何が言いたいのか？」**

(1) 英文和訳：文体のかなり異なる文章が2題出題されることが多い。すなわち論説・評論文などの「かたい」文体の抽象度の高い文章と、具体的内容で比較的わかりやすい英文である。複雑な文構造を理解し、正確な日本語に訳すこと。単語の意味は文脈の中で決まるので、英語と日本語を一对一の対応で訳さず、常によりよい日本語で表現しようとする姿勢が重要。豊かな語彙力も。文法・構文力は大前提。

多くの場合、下線部では1つひとつの文がかなり長い。1つの文中にいくつものカンマやダッシュ、あるいは and や that などの等位接続詞が出てくる場合も多い。一般に、sentence が長くなると、そこに含まれる事項は多くなり、短い文では簡単に見て取れた事項でも、気づかないこともしばしばある。大切なのは、特定の事項を「知っているか、知らないか」というよりは、英文中でその事項に「気づくか、気づかないか」なのです。教科書レベルの知識・理解力がないことは想定されていない。

特に注意したいのは、同格、カンマやダッシュの前後の語句のを考えさせる箇所が好んで出される。また、このような項目の「変則的な形」が出てくることも多い。

これらの事項を含む文の構造を正確に把握するために必要なのは、しっかりとした文法・語法的な知識と、複雑な文章の中でも構造に対して忠実に読んでいく能力、意味内容を正確に追っていく能力、文脈の中で知らない単語、表現を推測する能力、そして日本語としてできる限り自然な洗練された日本語を書く力です。

《文脈を十分視野に入れた上での文構造を把握しながら正確に読む「精読力」の養成と、理解した概念の的確な日本語への訳出の練習の積み重ね》

## ■英作文問題の比較 ～ココが違う！

### ●神戸大

次の文章の下線部(1)、(2)を英語に訳しなさい。

読書の面白さの一つは、読んだ本について、他の人とコミュニケーションが取れるということだ。

相手がその本を読んでいないときには、是非にと推薦する楽しみがある。①自分の感動したものについて、それを誰かに教え、その人にも感動を味わってもらいたいという気持ちを抱く人は多いだろう。

また、すでに読んだという人と、感想を語り合うことも、もちろん楽しいことだ。②見ず知らずの人とでも、同じ本を読んでいたというだけで、仲良くなれることもある。同じ感想を抱いていれば、それで大いに盛り上がるだろうし、違っているなら、どう違うのかを話し合うことで、自分の考えの幅を広げることができるだろう。

### ●京都大

III 次の文章を英訳しなさい。



生兵法は大怪我のもとというが、現代のように個人が簡単に発信できる時代には、とくに注意しなければならない。聞きかじった知識を、さも自分で考えたかのように披露すると、後で必ず痛い目にあう。専門家とて油断は禁物、専門外では素人であることを忘れがちだ。さまざまな情報がすぐに手に入る世の中だからこそ、確かな知識を身に付けることの重要性を見直すことが大切である。(2017年度) ※下線部が難しい

IV 「積ん読」とは？

それをどう思うか？

問題文の骨組みをそのまま英語にできる神戸大の問題文に比べて、京都大の問題文はそのままでは英語に置き換えられない！  
「和文和訳」の力が必要！

(2) 和文英訳：日本語らしい文章で、こなれた表現の多い随筆的な文章が出題され、直訳、逐語訳が困難な箇所が少なくない。内容的には、ある程度、まとまり「主張」があるものが多い。表現の点で難しい箇所は「和文和訳」(言い回しが難しい日本語を簡単な日本語に直す)が行えるかどうか(日本語を分析する能力)がヤマである。「翻訳する」ぐらいの気持ちで。問題文が長いので接続に誤りがないように注意が必要。「こなれた日本語」をどう攻めるかがポイント。

●英文だけを読んで、日本文で書かれているま張や状況がはっきりとわかるような文章を書くことである。そのためには、日本文の中の、重要な内容(情報)を優先的に書いていく。些末な情報はカットするくらいでよい。また、よく知っている表現、構文しか使わないという態度を徹底させる。「KISSの法則」(Keep It Short & Simple)も重要。

●基本的なミスは採点対象外。

●授業で使う教材に積極的、徹底的に取り組むこと。必ず自分の答えを書き直してもらうこと。日頃からの練習量がモノを言う。添削練習必須！

参考書 『竹岡広信のトークで攻略 京大への英語塾』(語学春秋社、1800円)のCD講義を聴け。鬼塚幹彦『「京大」英作文のすべて』(研究社)が具体的な解き方を教えてくれる。原田健作『世界一わかりやすい 京大の英語』(中経出版、1995円)もいい。

超オススメ！

重要

(付) 英語はなぜ文系・理系を問わず入試科目なのか？

- (1) 新しいものを体系的に学ぶ能力と姿勢を試すことができる。
- (2) 記号化された情報を理解し、運用する能力を試すことができる。
- (3) 日本語の運用力を試すことができる。
- (4) 海外の情報をいち早く受信する道具である。
- (5) 海外に向けて情報を発信する道具である。

(京都大学の英語の問題にはこの視点が欠けている)

一言で言うと、東大は簡単そうに見えてちゃんと落とし穴が作っており、京大は難しそうに見えて本当に難しい